

— 目指せ 自治会活性化 —

〔26年度〕**地域づくり
担い手育成講座**

ダイジェスト



長崎市 自治振興課

〔26年度〕地域づくり 担い手育成講座

ダイジェスト

長崎市では、地域の若い世代の方に、自治会活動への知識を深め、自治会を牽引する力を身に付けていただくため、平成20年度から「地域づくり担い手育成講座」を実施しております。

今年度は毎回、テーマごとにグループ討議を行い、実際の活動時に感じる悩みや課題を出し合い、具体的な解決手法を探りました。

— 目次 —

第1回	オリエンテーション	2
第2回	事例紹介	8
第3回	グループワーク（1）	31
第4回	グループワーク（2）	44
第5回	講座のまとめ	49

第1回 オリエンテーション

1. 講師・サポーターの紹介

2. グループワーク

「地域活動における大切なものの競売」

講師・サポーターの紹介

講師：ベイ ヨンジュン 先生

(長崎ウエスレヤン大学 現代社会学部社会福祉学科 教授)

地域コミュニティと地域福祉の専門家であり、長崎市においても、ダイヤモンド第3自治会における実践活動を通じて自治会の現状や課題を研究されています。



サポーター

平成24年度の講座修了生であり、長崎市の「いきいき地域サポーター制度」に、自治会運営サポーターとしてご登録いただいた方々。

自治会での経験を通じて、講座での議論などをより深めるサポートをしていただきます。

小田さん(女の都西部)

松島さん(ダイヤモンド第3)



富増さん(光風台第2)

山口さん(鶴の尾町)

「地域活動における大切なものの競売」資料 1/2

◎ 目的

地域住民として、地域や地域活動に関心を持ち、これから地域活動を始めようとする方、あるいは、地域をより盛り上げようと考えている方などがお互いに顔を合わせ、お互いの地域活動への思いや情熱、本気度を確認する。

◎ 準備

- ① 4～5人程度のグループをつくり、演習シートの項目について一人100万円の範囲で競りをする。
- ② まず、各個人で競りの目安金額をつける。各項目について、欲しいと思うものに「万単位」で配分する。
- ③ 値を付けることのできない項目に対しては「0円」にする。
- ④ 司会者を一人決める。(司会者も競りに参加する。)
- ⑤ 司会者は項目順に、落札希望者を募り、競りをリードする。
 - ・落札希望者は額を言って競りに参加する。
 - ・競り値は目安の額を超えても構わないので、「100万円の範囲」内で、できるだけ安い値段で競り落とすようにする。
 - ・他の落札希望者はより高い額を言うが、安く買うのが目的なので、できるだけ急激に額を上げないで、少しずつ(ただし万円単位)競り値を上げていく。
- ⑥ 競り値が高くなり、これ以上は払えないと判断した時には「降ります」と言って権利を放棄する。
- ⑦ こうして最後まで残った人が落札できたものとし、司会者が落札者の名前と値段を確定して次に移る。
- ⑧ 落札した人は、落札額分のお札をテーブルの上に出す。もちろん競りの途中で降りた場合は、使っていないことになる。

◎ 進行例

司会者 「1番『自治会会長のリーダーシップ』、競りを始めて下さい」

Aさん 「1万円」

Bさん 「2万円」……

司会者 「他にいませんか」

Cさん 「4万円」

Aさん、Bさん 「降ります」

司会者 「4万円が出ました。他にいませんか？」※

司会者 「では、Cさんが4万円で落札。次は2番……」

※ 司会者は各項目ごとに、最終額を再度確認し、落札者を決められるようにしてください。

「地域活動における大切なものの競売」資料 2/2

項目	目安の値段	落札価格	落札者
1. 自治会会長のリーダーシップ			
2. 近隣の付き合い（声かけや安否確認）			
3. 子育て支援、子どもの交流の場づくり			
4. 災害時の手助け、自主防災組織の結成			
5. 長崎の景気の活性化			
6. 新成人を祝う交流会			
7. 日常的に人が集まる場所作り			
8. 一人暮らし高齢者の生活支援			
9. 透明な自治会の運営			
10. 地域内での勉強会や講習会の開催			
11. 商店が少ない、買い物不便等の問題解消			
12. 自治会への加入者を増やす活動			
13. 生活の困り事の手助けする活動・仕組み			
14. 自治会新聞等の発行、活動の宣伝			
15. 高齢者を元気つける活動、高齢者の遊び場、 ふれあいサロン・集いの場			
16. 親子で参加できる行事の充実			
17. 地域マナー（路上駐車、ゴミ分別、犬猫等）			
18. 伝統的な行事の伝承			
19. 若年層が参加できる取り組み、イベント			
20. 防犯問題（防犯灯の設置、治安など）の解消			
21. 地域の草刈り、花壇作り、安全パトロール等 ボランティアグループ活動の活性化			
22. あいさつができるまちづくり			
23. 長崎市の地域活動関連の補助金支給			
24. 地域活動の関連機関等との連携 （例えば、民生委員・児童委員との協同、大学・大 学生ボランティア等との連携、社会福祉協議会との 連携、いきいきサポーターとの協働など）			
25. 自治会役員の人材育成のための取り組み			

振り返り

氏名.....

1. 自分のグループの高額ベスト3（競りした**項目の番号**と**落札額**をご記入ください。）

①（金額 万円）

②（金額 万円）

③（金額 万円）

2. 以下の質問に対し、該当する項目とその理由を考えてみましょう。

① **目安の段階で最も高い値段を付けたものは？いくらでしたか？**

.....（金額 万円）

（理由）.....

② **実際の競りの中で目安の値段を超えてまで手に入れたくなったものは？**

.....（金額 万円）

（理由）.....

③ **あなたがさほど必要と思わなかったのに他のメンバーが強く欲しがったものは？**

.....（金額 万円）

④ **競り後、残った金額**をご記入ください。.....（残額 万円）

⑤ **この演習の印象**もしくは**感想**をご記入ください。

.....
.....
.....



第2回 事例紹介

1. 自治会活動事例紹介

- ・ダイヤランド第3自治会**
- ・鶴の尾町自治会**

2. 「次の時代の長崎へ」

- ・長崎市自治振興課**

3. 第3回～第4回のテーマ選定

活動紹介ーダイヤランド第3自治会

(サポーター 松島さん)

みなさんおはようございます。ダイヤランド第3自治会長の松島です。自治会長になって5年目です。私の自治会は、約500世帯、1600の方がおられまして、65歳以上の高齢者が329名。

町ができて30年になりますので、家を建ててこれから高齢者が一気に増えてくるというような状況で、あと5年後には

600人近くの方が65歳以上になるだろうという町です。そんな町ですので、高齢化対策に力を入れなければならないということで、自治会長としても取り組んでいます。



自治会の仕組みについてですが、うちの自治会は役員の任期が1年。1年経ったら交代です。しかし全部で役員が40名くらいおられますので、1年間で交代していく中でも、元気のある人とか、地域に思い入れのある人が見つかるわけです。そういう人が1年で地域活動の場から居なくなるのは惜しいですね。

そこで、そうした人たちに、役員の任期が切れても引き続き活躍していただくために、自治会役員とは別に、ボランティアのグループ、「地域活動クラブ」というものを作って活動しています。



「地域活動クラブ」の活動の原則は、できる人が、できるときに、できることをやるということ。活動になかなか来れない人がいても、批判しない。今、参加している人たちで少しずつできることをやろう。そういう取り組みです。草刈りをしたり、公衆トイレの掃除をしたりすることで、地域に貢献しよう。毎回参加できなくても、月1回、年1回だけでも、参加できる人を拾い上げる……そういうグループです。自治会とは別の組織ですが、自治会との共同作業で地域を盛り上げていくという活動です。

私たちの町の目標、キャッチフレーズは「立ち話のできるまち」というものです。「あいさつのできるまち」というのは、一般的に良く言われますよね。私たちはそれからまた一歩進んで、知り合いや友達が多くできるようなまちにしていこう、ということです。

その一環でもありますが、4年前に「高齢者サロン」を立ち上げました。家にこもりがちな人に、毎週出てきてもらおうという活動です。

しかしこれ、立ち上げるにあたって大反対が起こったんです。どこから出てきたかという、老人会だったんですね。うちも一生懸命やっているのになぜわざわざそういうことをするのか、というようなことでした。

これに対しては、なかなか大変でしたが、老人会は老人会で良いんですよ。老人会にも入ってもらえばいいじゃないですかと。高齢者が 329 人いる中で、老人会のメンバーというのは 50 人とか 60 人くらいです。入っていない人の方が多いんですね。

サロンは、老人会に入っていないような人たちにも、地域に出てきてもらおうという活動なんですよ、老人会の活動は尊重しますし、今まで地域に出てこなかった人が地域に出てくることによって、老人会にもプラスになるかもしれないじゃないですか、と。何度も説明しました。今では老人会の皆さんも納得して、一緒にサロンの活動もしているという状況です。

サロンは、毎週定期的にやることによって、高齢者が外に出てくるようにするというもので、それに対して市が補助をするというものです。逆に言えば、毎週しなければならないということです。ちょっと大変ですが。

補足しておきますと、月に 1 回ぐらいならできるということなら、市の社会福祉協議会の補助も、また別にあります。毎週なら、市のすこやか支援課もバックアップしてくれるということです。詳しいことは、それぞれにお尋ねいただいた方がよいと思います。

サロンの中身なんですが、要するにそういった補助のお金を活用しながら、毎週、高齢者が出てきて集まって、楽しいことをやるということです。例を挙げれば、うちで一番人気なのが、じつは麻雀なんですね。なぜ麻雀かと考えれば、今 70 歳前後の人たちというのは、

若いころ、よく麻雀をやっていたという方が多いんです。皆さんの中にも覚えがある方は多いと思います。

当時は雀荘とかで、タバコを吸いながらやっていたんでしょうが、「サロン」でやるのは「健康麻雀」と言って、タバコを吸わない、酒を飲まない、お金を賭けないというルールでやる麻雀です。じつは麻雀は、ゲームとして見ますと、指先をよく動かす、とっさの判断力が求められる、適度に会話を楽しみながらやるということで、脳の活性化につながり、老化防止に良いという研究もあるみたいです。

この健康麻雀を毎週土曜日にやっていますが、いつも4卓から5卓、だいたい20人とか25人くらいの方が参加します。



これによって、新しい友達ができる。中には女性もいます。「興味があった」「一度やってみたかった」というわけですね。

女性について言えば、麻雀のほかに手芸教室も、サロンの一環として毎週やっています。手芸は手芸で、麻雀とはまた違ったメンバーが集まって、新しい仲間づくりが生まれるわけです。主催者としては、いろんな活動をすることによって、いろんな新しい人が来て新しい輪が広がることを狙っています。他にもカラオケとか、グラウンドゴルフもやっています。

市の補助の要件としては、週に1回やればいいわけですが、うちの場合は週に3回くらいやっています。それでも補助の金額が増えるわけではありませんが、お金の問題ではなくて、参加した皆さんから、一回じゃ物足りないという声がたくさんありましたので、ちょっと大変ですが、いろんなことをやるようにしたということです。

こういう「サロン」を通じて、高齢者も含めて地域が元気になるような取組みを進めているということで、今日ご紹介させていただきました。

～活動紹介—ダイヤランド第3自治会 終了～



活動紹介一鶴の尾町自治会

(サポーター 山口さん)

みなさんおはようございます。鶴の尾町の自治会長をしております山口と申します。会長歴が、松島会長と同じ5年。年齢が65歳。

あまり関係ないですけど血液型まで言いますとA型、占いから言えばちょっと堅い人間ということになるようです。



鶴の尾町では、色々な地域でも同じところが多いでしょうが、キーワードは「高齢化問題」ではないかと思うんです。自治会活動をいろいろやるのはいいけれど、自治会が持っている力を超えて何もかも総花的にやろうとしてもうまくいかないということで、鶴の尾町では高齢者の生活支援「助っ人隊」というところに焦点を合わせてやっています。詳しくは、鶴の尾町自治会のDVDがありますのでこちらをご覧くださいと思います。

(Youtube でご覧になれます) <http://youtu.be/FI76PID1hVg>



……ということで、鶴の尾町自治会の活動の一部をご紹介します。やろうと思えば、じつはやれることなんじゃないかと思うんです。いつ、どこで、どんな形でやるかというのが問題になるというだけで、小さな生活支援ということ自体は、やれます。昔は結構、お互いにお手伝いとかしてましたよね。

こういうことを始めたきっかけとしては、こんな世の中ですから、人間も病みますが、地域が……社会がどんどん病んでいっているんじゃないかという思いがあったからです。その中で「弱者」というのが——あまり上から目線で考えてはいけませんが——地域にゴロゴロしているという現実がありました。高齢者というのも、やはり地域における「弱者」だと捉えることもできるのではないかと思います。

もちろん、そうした「弱者」が生活する上では、ちゃんと行政サービスや民間の福祉のサービスもありますし、自分のお金を払ってサービスを買うということもできます。しかし、細かいところまでは当然、ありませんし、できません。ここで私たちが考えたのは、行政でも民間でもやれない、谷間にあるものをどうやるかということです。

一例を挙げると、高齢者の独り暮らしで、電球が替えられないものだから、一年間真っ暗なところで暮らしていたという話がありました。なぜ隣近所に相談しなかったんだろうとも思いましたが、人に迷惑をかけないという気持ちがあったのでしょうか、ずっとそのままだった、という現実があったわけです。

そこで、ちょっと時計の針を巻き戻して、昭和の時代の発想に戻して、そんなことは、近所のできる人にちょっとお願いしましょうと。今の高齢者は、電球に限らず、ちょっとカメラとか時計の電池が切れたりしたら、もうそのままという話もゴロゴロしています。

そういうことで、とにかく、気軽に相談してもらえば、手が空いた人間がいくらでもいるわけですから、やりますよという仕組みを立ち上げたのが「助っ人隊」なんです。

「助っ人隊」のサービスのメニューですが、これは私も親を見ていましたので、何が必要かよくわかるんです。重たい物の移動とか、高い場所での作業とか、そういったことをやるわけですね。庭木の剪定なんかも、業者に頼むと高いですね。もったいないです。時間の余っている人がやりましょう。

そして、業者に頼むと、やはり美しく仕上げてくれるわけですよ。でも高齢で一人暮らしということになれば、もう見た目なんてどうでもいいんです。いかにメンテナンスがしやすいようにするかということが問題になるわけですね。多少不細工でも、高くないようにバシバシ切ったりとか……こういったことを地域で完結させましょう、という活動なんです。

あとは、いかにスタッフを集めるかということですが、これはまず団塊の世代……今は65歳まで仕事をする人も多いですから、今も地域デビューを待つ人が多くいるわけですよ。

そして、団塊の世代以降も、やはり退職する人。こういった方々に、職場での地位や肩書を忘れて、地域にうまく入ってもらうにはどうしたらいいか、どう取り込んでいくかということですね。でも、確かに難しいんですよ。

退職を控えた男がいる家庭には、奥さんにいつも言っていることがあります。「旦那さんの再教育をしてください」と……

まず、家庭においては、炊事洗濯掃除くらいはできるようにということ。これができないと、家の中で本当に何もしないことになってしまいますし、たとえば、奥さんが体調を崩したときには、非常にまずいわけですね。

それから、地域活動の種をまいてくださいということ。男が働いている間は、班長の仕事とか、自治会活動は奥さんが中心になって動くことが多かったですね。しかし退職後は、男にも出てきてもらいたいわけですから。そこで、奥さんの立場から、徐々に地域に連れて行ったりして、準備をしてもらいたいということを行っています。

その地域デビューのきっかけとして開催しているのが「男の会」です。これは早く言えば飲み会です。仕事に打ち込んできた人が退職すると、地域で自分の名前を覚えてもらう、地域の名前を覚えるというから始めなければいけません。そういうのが実情ですから、まずは場をつくらうということで立ち上げました。飲み物と食べ物は各自で持ってきてくださいということです。

奥さんも、夫にはできるだけ地域に出てほしい……あるいは、家から追い出したいのでしょうか。真実はわかりませんが、そういうふうに行っている方が多いので、ちょっと料理を持たせてくれたりということもあります。奥さんにとってみれば、確かに嫌でしょうね。家でずっとゴロゴロされるのは。

そういうことで、大体多い時で 20 人、少なくとも 8 人、10 人と集まっています。この場から、地域活動に広がっていくということを目論んでいるわけですね。

少々お時間が長くなりましたが、このあたりが、鶴の尾町自治会の活動紹介ということになろうかと思えます。ありがとうございました。

～活動紹介—鶴の尾町自治会 終了～



「次の時代の長崎へ」—自治振興課

※当日は、時間の関係で省略した部分がありましたが、ここでは用意していたものを全てご紹介します。

(自治振興課長 森)

ダイヤモンド3丁目と鶴の尾の素晴らしい話を聞かせていただきました。これからはちょっと暗めの話にはなりますが、参考になるような情報をかいつまんで提供したいなと思っております。

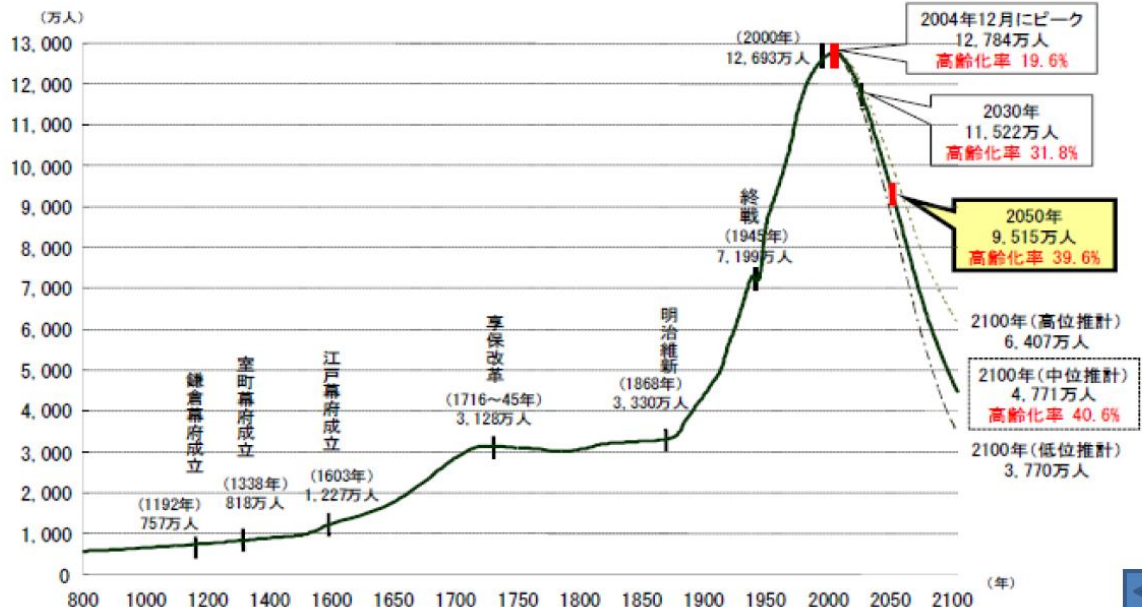
日本の人口推移（将来設計含む）

第1章 長期展望の前提となる大きな潮流

我が国の人口は長期的には急減する局面に

国土交通省

○日本の総人口は、2004年をピークに、今後100年間で100年前（明治時代後半）の水準に戻っていく可能性。この変化は千年単位でも類を見ない、極めて急激な減少。



(出典)総務省「国勢調査報告」、同「人口推計年報」、同「平成12年及び17年国勢調査結果による補間推計人口」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成18年12月推計)」、国土庁「日本列島における人口分布の長期時系列分析(1974年)をもとに、国土交通省国土計画局作成

長崎市の人口へ

この表をご覧ください。日本の人口の増減を表したグラフです。鎌倉時代から書いていま

すが、急速に増え始めたのは明治時代、産業革命の頃です。そこからどんどん増えて、2000

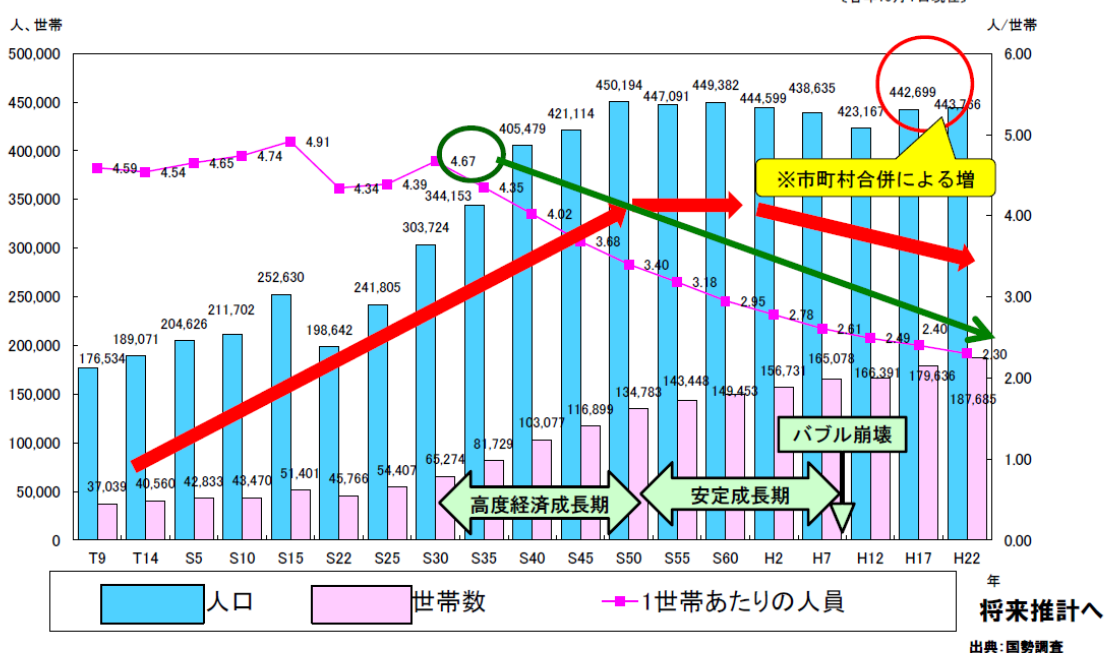
年代がちょうどピークになっているという状況です。

そしてこれからは、増えてきたのとほぼ同じ角度で減っていく。今まで増加を続けていた人口が、一気に減少していくという大転換の時期にあるわけです。

人口減少の社会へ

- ★人口：高度経済成長期（昭和29年～48年）まで増加し、
安定成長期（昭和48年～平成3年）後半から減少
- ★世帯数等：高度経済成長期前半から1世帯の人数が減少（核家族化の進行）

人口、世帯数及び1世帯あたりの人員の推移



次の資料を見ていただけませんか。長崎市の人口・世帯数、一世帯当たりの人数ですが、人口については、合併で増加していますが、傾向としては減少傾向にあります。しかし、ここで世帯数をご覧いただくと、世帯数は高度成長期くらいからずっと増加しているんですね。結果として、一世帯当たりの人数は急激に少なくなっています。

高度成長期には核家族化、そして今では単独世帯が増加しているというのが原因と考えられています。これがやはり特徴的なところではないかと思えます。



次に長崎市の人口推移です。折れ線グラフは、世代別の人口を表しています。

- ・ 0 歳から 14 歳までの子ども。
- ・ 15 歳から 64 歳までの、いわゆる生産年齢人口。
- ・ そして 65 歳以上と、75 歳以上。

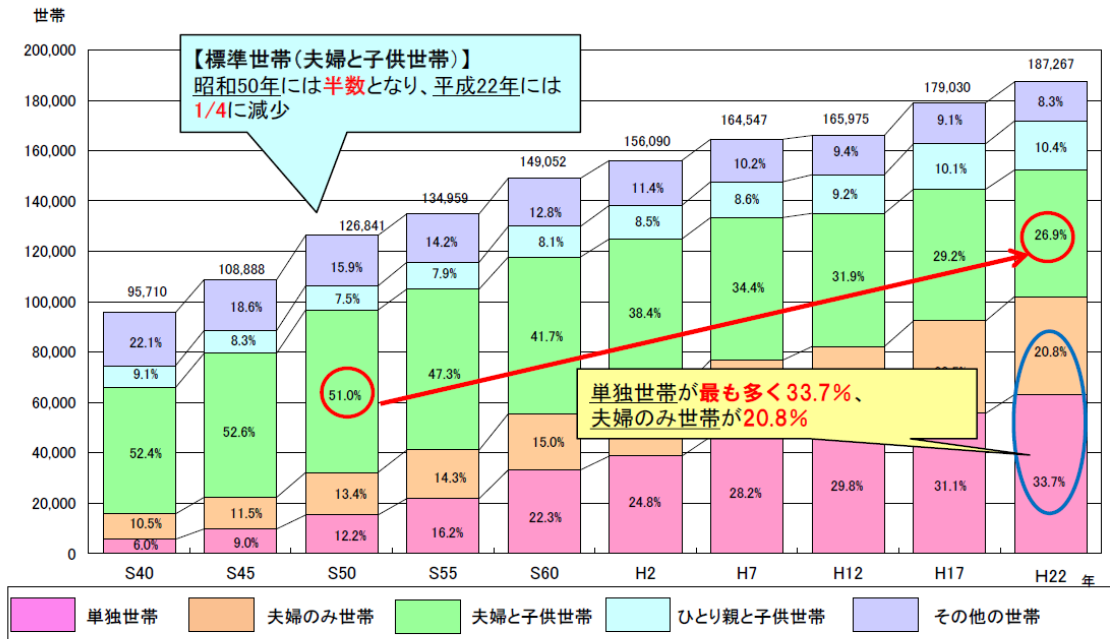
それぞれの世代の人口がこのように変化をしているということです。

最も多い単独世帯

- ★もはや標準世帯とは呼べない！⇒「夫婦と子供世帯」は全世帯の1/4
- ★「単独世帯」と「夫婦のみ世帯」が増加⇒全世帯の半数以上

家族類型別世帯数の推移

[各年10月1日現在]



出典：国勢調査

43



いろいろな表でご説明をしておりますが、問題点は同じようなことです。何か心に触れたものを、記憶していただければと思います。

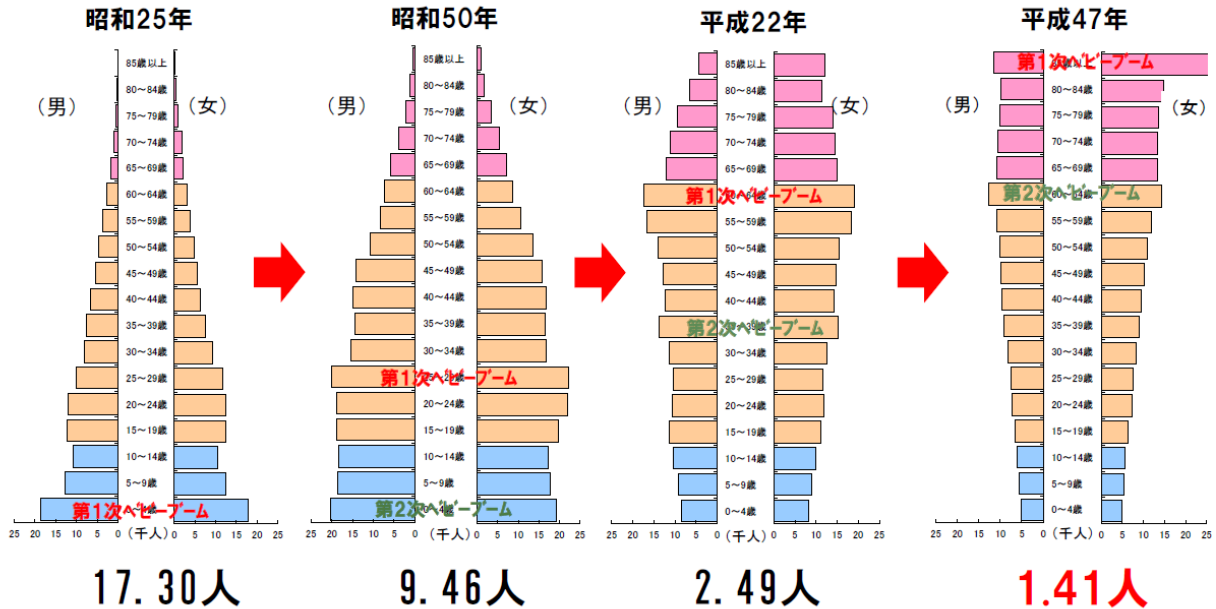
このグラフでは、「最も多い単独世帯」ということで、何を表現しているかと言いますと、古くから、夫婦と子供の世帯、つまり核家族のことを、統計上「標準世帯」と言って取り扱っていました。昭和50年ごろまではそういった世帯が半数以上でした。

しかし今では、「標準」世帯も4分の1ぐらい。代わりに増えたのが単独世帯です。一人暮らしがなんと3分の1です。グラフには出ませんが、その中でも高齢者が増えているという事実もあります。人口だけでなく、世帯の中身も変わってきているというグラフで。

少子化・超高齢社会へ

★少子化は止まらず、団塊の世代（第1次ベビーブーム）が高齢化し、少子化、超高齢社会へ
★このまま推移すると、平成47年には1.41人で1人の老年者（65歳以上）を支えることに

人口ピラミッドの推移



※下段の人数は、老年者(65歳以上)1人を支える生産年齢人口(15歳～64歳)の人数を示す

長崎市の高齢化予測へ

出典：国勢調査(昭和25年～平成22年)
国立社会保障 人口問題研究所(平成47年)

44



次のページをご覧ください。人口ピラミッドです。皆様もいろいろなところでご覧になったことがあるかとは思いますが、一番左が昭和25年、一番右が平成47年、20年後の予測です。大きく眺めていただければ、三角形のピラミッドが、逆三角形になっていくということがお分かりいただけるかと思えます。ベビーブームで生まれた世代が、そのまま減らずに持ち上がっていくというような形ですね。

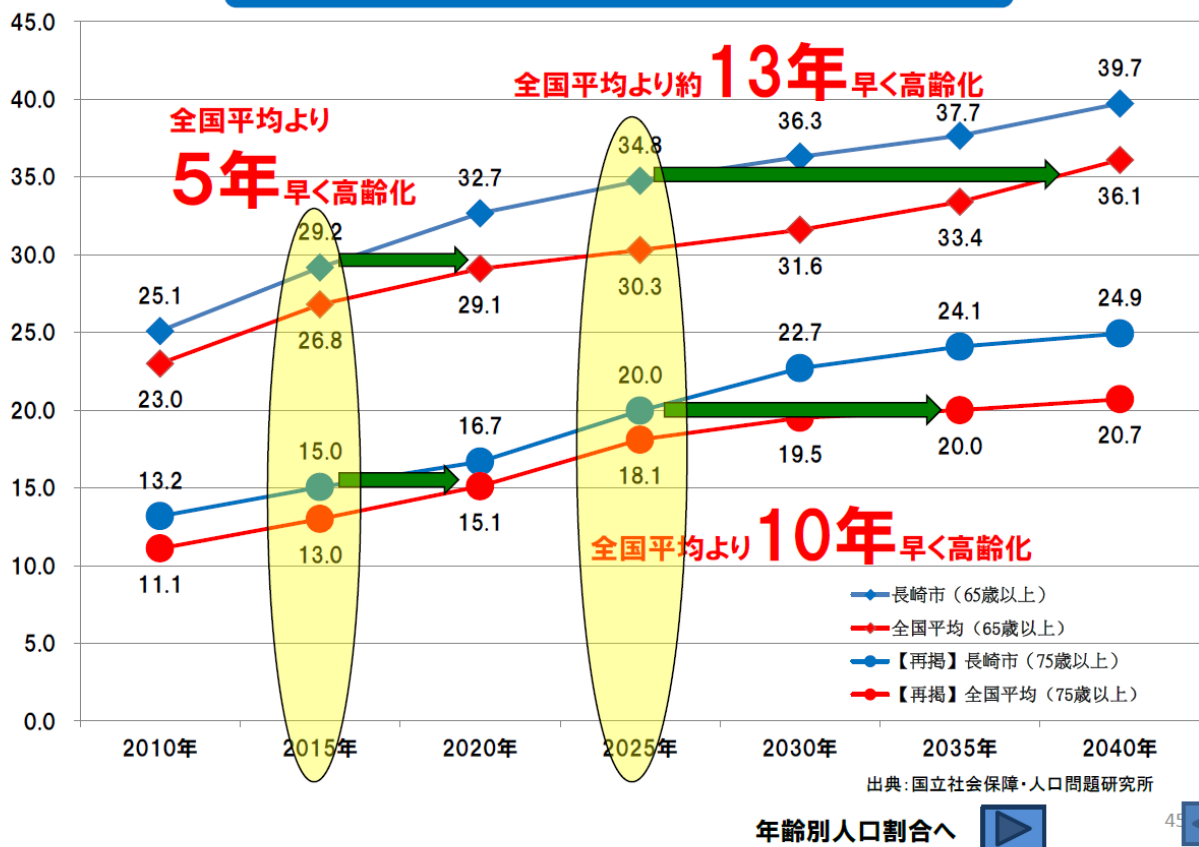
下の数字にも着目してください。これは65歳以上の高齢者に対する生産年齢人口(15-64歳)の割合です。

昭和 25 年には 17.30 人。よくある表現で「胴上げ状態」と言われます。それが平成 22 年には 2.49 人、「騎馬戦」状態ですね。平成 47 年には 1.41 人、これが「肩車」などとよく言われます。

注釈では「高齢者を支える人口」と書いていますが、こういった状態になると、今までのようなやり方では、どう考えてもこれだけの人数で支えるというのは難しいです。社会のシステム自体を考えていかなければならないのではないかと思います。

もう一つ個人的に驚いたのが、昭和 25 年から平成 47 年まで、およそ 80 年強なんですね。長いようですが、じつは、一人の人間が生まれてから死ぬまでの期間くらいだと考えると、その短い間に、これだけの急速な変化があっているという事実には驚きます。

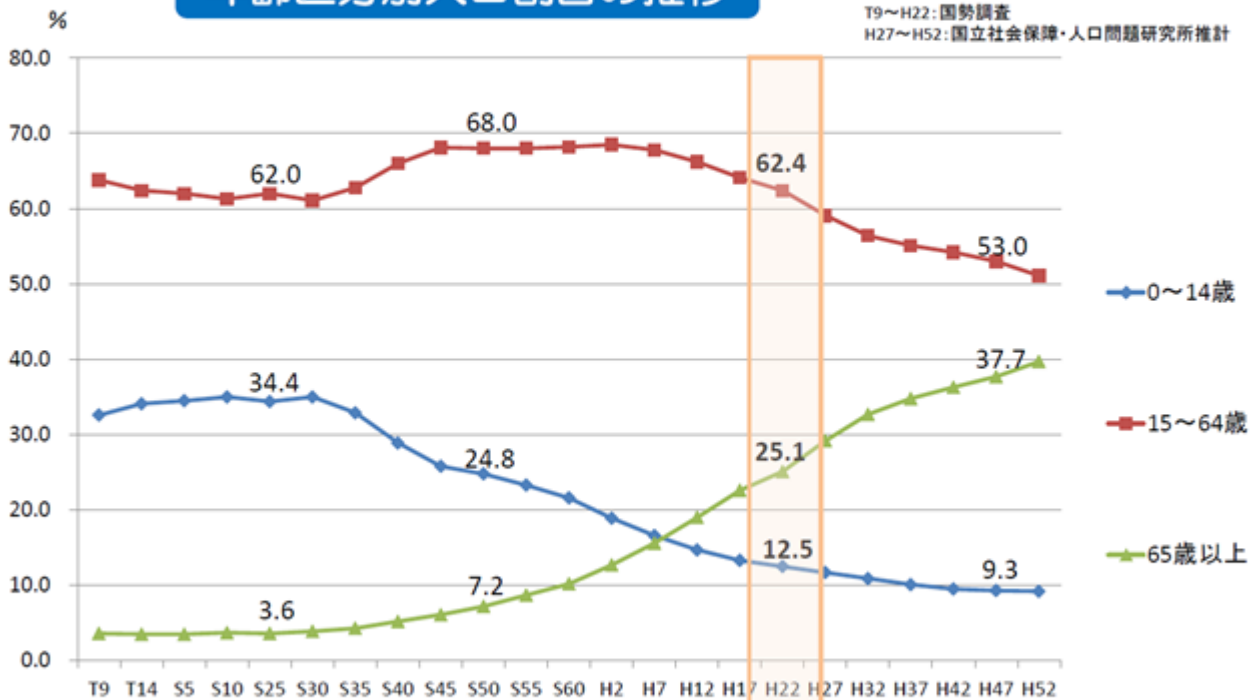
長崎市の高齢化率の将来予測



次に高齢化率の将来予測です。上の赤青の折れ線が 65 歳以上、下が 75 歳以上です。これが何を表しているのかと言うと、もう字で書いてありますが、長崎市は全国平均よりも 5 年、10 年早く高齢化していくという予測です。

人口増加、経済成長の時代では、増える人口と膨張する経済をもとに、大都市で新しいモノや文化が生まれ、徐々に地方に波及していくという構造がありました。しかし、人口減少時代では、変化の最先端、最前線は地方にあるわけです。つまりこれからは、長崎市のような地方が自ら知恵を絞って、どのようなモデルをつくっていけるかということが、日本という国全体の未来にも関わっていくのではないかと思います。

年齢区分別人口割合の推移



46

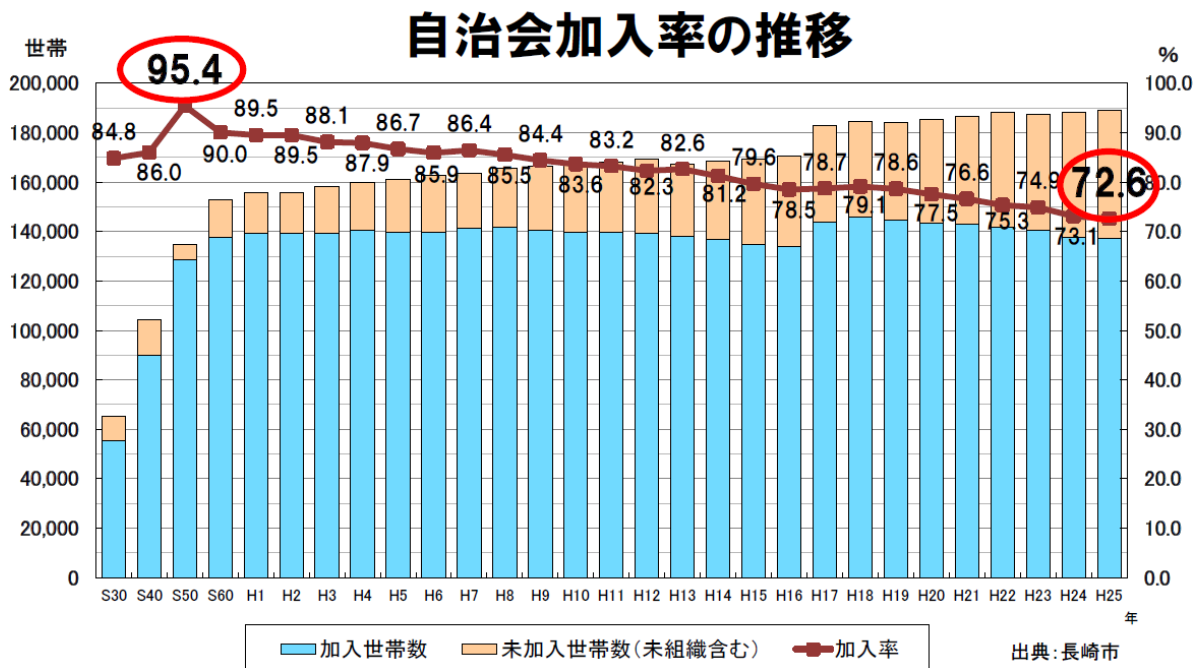


こちらは人口割合のグラフです。一点だけ申し上げたいのは、下のクロスしている2本のグラフ。これは0～14歳の子どもと、65歳以上の高齢者の割合のグラフです。

地域活動ということ言えば、地域に昼間にいる人たちというのは、子どもと、お年寄り。子どもとお年寄りがいつも昼間に、地域の中でいろいろなことをやっているということです。15歳から64歳の人たちというのは、働きますから、あまり地域で過ごしている時間は長くありませんよね。ですから、地域の活動を語る上では、子ども、高齢者の視点が外せないということになってくるのではないかと思います。

コミュニティ機能の低下

自治会加入率は昭和50年頃をピークに低下している



49



次は私どもとしても非常に苦しいところではあるのですが、自治会加入率の推移です。

年々1%程度ずつ下がっているという現状です。ここには載っていませんが、26年度にあつては71.1%です。

ただし、これは市全体の推計世帯数をもとに算出しておりますので、いわゆる空白地帯、たとえば地元自治会の区域に入っていないマンションであるとかの事情は加味されておられません。先ほど申しましたように、世帯数は増加、人口は減少という中であつて、高齢の単身世帯が増えているといった変化にどう対応していくのかというところ、私たちが研究していかなければならないところだと思っております。

区分	概要	活動内容	組織	担当課
自治会	会員相互の親睦と福祉の向上を図り、健康で住みやすいまちづくりを行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・清掃、緑化活動、資源物回収 ・敬老会、独居老人への声かけ ・防犯パトロール、防火活動 ・街路灯設置、道路改良などの要望 ・広報なかさき配布 ・運動会、祭り、ラジオ体操 など ・くんち、ペーロン大会 など 	自治会数 988 (H26.6.6現在)	自治振興課
連合自治会	各自治会を束ね、または連携させる組織として、概ね小学校区単位で組織された団体。	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会の連携会議 ・校区レベルの行事 	連合自治会数 85 (H26.6.6現在)	自治振興課
民生委員・児童委員 (地区協議会)	(民生委員) 地域において、常に住民の立場に立って相談に応じ、必要な援助を行い、社会福祉の増進に努める。 (地区協議会) 民生委員・児童委員の連絡調整を行うための地区単位の組織。	<ul style="list-style-type: none"> (民生委員) 生活困窮者、高齢者、ひとり親家庭、障害者等についての助言・指導 関係行政機関との調整 など (地区協議会) 連絡調整、資質向上のための研修等 	民生委員 968人 地区協議会数 49 (H26.6.1現在)	福祉総務課
社会福祉協議会 地区支部	地区内における地域福祉の推進を図る。 地区内の自主的な福祉活動の中核となり、住民が参加しやすい福祉活動を促進する。	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の食事サービス、子育てサロン ・福祉講演会、研修会、支部だより発行 ・地域の祭り など 	社協支部数 58か所 (H26.5月現在)	福祉総務課
老人クラブ	高齢者の知識や経験を生かし、生きがいと健康づくりのためのいろいろな社会活動を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・仲間づくり、地域社会との交流 ・教養の向上、健康の維持増進 ・奉仕活動 など 	360クラブ 20,270人 (H26.3月末現在)	高齢者すこやか支援課
青少年育成協議会	青少年が健全に成長できるよう、また、非行や事故を未然に防ぐため、地域ぐるみで協力して活動を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ運動、防犯活動 など ・運動会、キャンプ等の体験活動 など 	小学校区(23) 中学校区(32)	こどもみらい課
子ども会	子ども達の連帯感、協調性、自立意識を高めるために、地域単位で様々な体験活動を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・季節行事、伝統行事 ・奉仕的活動、レクリエーション活動 など 	子ども会 283 (H26.3月末現在)	こどもみらい課
子どもを守るネットワーク	子どもが安全・安心に過ごせるまちづくりのための見守り活動を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・巡回活動、情報交換会、交流活動 など 	小学校区(71)	こどもみらい課
PTA (育友会、育成会など)	保護者と教師の会。子どもの福祉と教育効果の向上を目的とし、保護者・教師が相互に協力して学校単位に組織された団体。	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事の支援、登下校の安全対策 ・地域の行事、親子レクレーション ・保護者向けの講座 など 	公立幼・小中学校 (市P連加入105) (H26.3月末現在)	生涯学習課

あとはご紹介だけですが、地域の主要な団体の一覧表です。皆様よくご存知だと思いますが、改めてこういうものがあるって、こういうことをしているのだということで、参考までにご覧いただければと思います。

「自治会活動の手引き」という冊子も作成しております。自治会長さんにはすでにお配りしているものですが、活動事例ですとか、今日もご協力いただいているいきいき地域サポーターというような、自治会の皆さんに使っていただけるような長崎市の制度など、いろいろな情報を掲載しております。

他にも、長崎市では「出前講座」というのをやっております。健康のこととか介護のこと、防犯防災のことなど、住民の方が興味をもたれるようなことについて、職員がやってきて無料でお話しをしますよという制度です。自治会の集会所で行うような、ちょっとした催しにいかがでしょうか、というご提案でした。

～次の時代の長崎へ 終了～



第3回～第4回のテーマ選定

項目	受講生番号	人数
1. 自治会役員や後継者の人材育成のための取り組み	5,11,14,17,19,21,22,25 +サポーター1	<u>9</u>
2. 自治会加入を勧める工夫	5,8,14,15,22,26	6
3. 自治会の広報活動の工夫	19,40 +サポーター2	4
4. 行事やイベントの活性化	37,40 +サポーター1	3
5. 災害に強いまちづくり	9,26,29,31,33	5
6. 高齢者を元気づける活動、遊び場、ふれあいサロン・集いの場、一人暮らし高齢者の支援	2,4,16,21,24, 29,30,35,36,37 +サポーター2	<u>12</u>
7. 制度の活用、関係機関との連携		0
8. 愉快で安心安全な地域生活	2,4,8,9,11,15,16,17, 24,25,30,31,33,35,36 +サポーター1	<u>16</u>
9. 自由記述	(趣旨) ・特に若年世帯からの個人情報の取得について ・子育て世代の支援に重点を置いた自治会活動 ・子ども会活動への支援 ・地域内における環境問題、廃棄物対策 ・役員を続けるための秘訣、パワーや気力の持続 ・自治会って何？ なぜ入らなければならないのか？	

第3回 グループワーク(1)

1. アイスブレイク

- ・リフレーミング・ストレングス

2. ワークショップ

- ・テーマ別のワークショップ
- ・グループさるく

アイスブレイク

(ベイ先生)

今日からは、個別の課題について話し合っていきます。これからの自治会、今までの皆さんのお話からもわかりますが、非常に難しい課題ばかりだと思います。たしかに難しいですが、ここで「どうしよう、できない」とか「問題がある、ダメだ」という考えばかりになってしまうと、何も進みません。それに、重いテーマばかり話すと、血圧が上がってしまいますね。また、この講座の2時間の間、悩みに悩んでも、長いようで結構短い時間ですから、多分、それほど多くは、いいアイデアが出ることはないでしょう。やはり、それぞれ地域に戻られてから、時間をかけて考えていくことが大切だと思います。



そこです、今日のところは、自分の理想のまちはどこなまちか、夢のあるまちとはどんなまちだろうか、ということを考えてみることにしましょう。これは、大きくて複雑なテーマになるほど、そうした方がいいんです。

日本の歌で一番明るい歌はなんですか？ ——『上を向いて歩こう』という歌がありますね。留学した初めの頃は、この歌でよく自分を励ましていました。まあ、周りの仲間からは「地面の状況もわからないのに、上を向いて歩いていると危ないぞ」と突っ込まれたこともあります。私はやはり、この歌が、すごく明るくていい歌だなあと思っています。

ということで今日は、とにかく「上を向いて」……現実的にどうするとか、できるのか、という議論は抜きにして、皆さんが思い描いてきた、ちょっとロマンチックになってもいいですから——長崎は、ロマンチックなまちというイメージがあって、これが非常に強みになっていると考えているんですけれども——皆さんの地域での、強みとか夢というものを出し合うことで、テーマに向かって行こうと思います。

とはいっても、突然「夢や理想を語ってください」と言われてもなかなか、面食らうというか、正直難しいという方がほとんどでしょうから、その前に練習というか、ワンクッション置くことにします。

先ほど「強み」という言葉をつかいました。長崎は「ロマンチックなまち」だというのは「強み」じゃないかと思えます。では皆さん、皆さん個人の強みは何でしょうか。いくつか思い浮かびますか。パツとは浮かばないですね。——では、目をつぶってみてください。

これから1分間、自分の強みを、できるだけたくさん考えてみてください。

～1分経過～

それでは、5個以上思いついた方、いらっしゃいますか。ちょっと手を挙げてみてください。……あれ、一人もいませんね。学生さんにこれをやると、結構手が挙がるんですが……
ということは、この場には「謙虚」な方がたくさんいらっしゃるのかもしれませんが。「謙虚」というのは、これはもう強みだと言えますね。

さて、こんな調子で、今から少しグループで作業をしてもらいます。難しい言い方では「リフレーミング・ストレングス」と言いますが、要するに「物事を肯定的に考える練習」です。
それではお配りした資料に沿って、進めていきたいと思います……

～以下、アイスブレイク～



＜アイスブレイク＞

・リフレーミングによるストレングスの理解

リフレーミングとは、言葉の使い方や見方を変えることによって、ある状況にまったくあたらしい意味を与える（認知の再構成）技法を言う。

リフレーミング・ストレングス視点による自分理解は、ネガティブな自己理解を強みにリフレーミングし、現在の自分を新たに見直してみる糸口を探す演習である。想像力を働かせて、ポジティブにいろいろ表現する。

※ 3～4人くらいのグループをつくる。

(1) まず、各自、自分のネガティブな面について2個位取り上げる。

〈例〉「頑固で困った人だ」

(2) 他のメンバーは、ポジティブな言い換えをする。想像力を働かせてたくさんのバリエーションを考える。

〈例〉「いったん決めたら決心が固い人ですね」

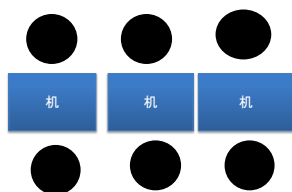
「自分の意思をもった人ですね」

(3) (2) で表現された言い換えのなかで、その人の強さ（ストレングス）についてみんなで話し合う。

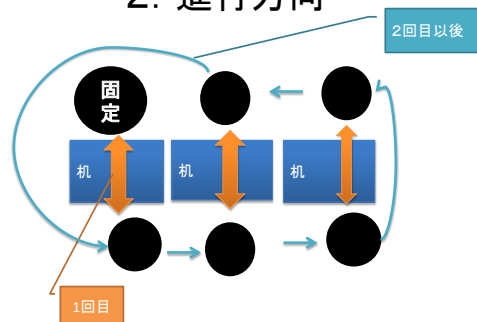
〈例〉「決心が固いというのは、その人らしい良さ（強さ）だよな」

「自分の意思をもっているというのは、その人らしい良さ（強さ）だよな」

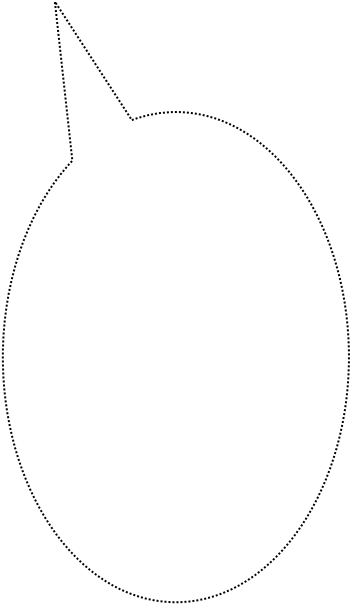
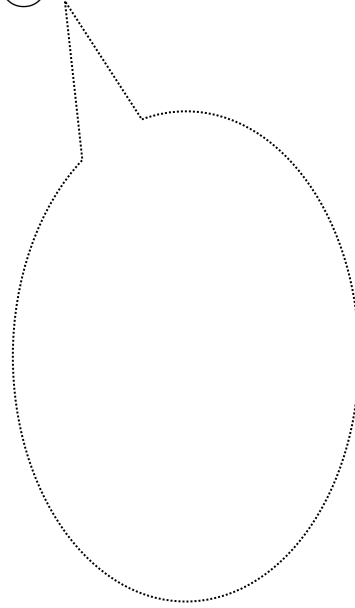
1. 座り方



2. 進行方向



[演習シート]

(1) 自分 () の ネガティブな面	(2) ポジティブに言い換えをする
① 	1人目 2人目 3人目 4人目 5人目
② 	1人目 2人目 3人目 4人目 5人目

～アイスブレイク 終了～

ワークショップ

さあ、よろしいですか。アイスブレイクということでしたが、少々長くなってしまいました。それでは本題に入ります。第2回での投票に基づいて、5つにグループを分けています。

「災害に強いまちづくり」が1グループ。

「高齢者を元気づける活動」が2グループ。

「愉快で安心安全な地域生活」が2グループ。

先ほどやったことと同じように、否定的なところを肯定的に。弱みを強みに変えるような考え方を心がけてください。

まずは、グループで、今日の話合いの目標を一つ決めていただきたいと思います。肯定的な目標ですよ。これから少し、考えてみてください。決まったグループは、模造紙と別に配っている細い紙に書いて、模造紙に貼り付けてください。直接書くんじゃなくて、貼りつける作業をしてもらうのが、ちょっとしたポイントでもあります。次に、付箋紙を配ります。

これから具体的にどういう作業をするかという、書いていただいた目標に対して、

- ① 自分のまちで今やっていること。うまくいっていること。それが無い場合は、
- ② どうやればできるかという思いつき。例えば「立派なリーダーがいる」とか。

付箋紙は沢山ありますので、どんどん思いついたことを書いていってください。別に正解とか間違いはありませんから。では、どうぞ。 ～ワークショップ 終了～

グループさるく

では、最後に「グループさるく」という呼び方をしますが、情報共有の時間を設けます。

各グループで、2名の発表者を決めてください。発表者のほうが、意外と楽ですから大丈夫です。

発表者の方は、模造紙を見ながら「このグループのテーマ、目標はこれです。今できていることはこれ、やりたいことはこれ、」そういったように順を追って発表していただくだけです。



発表者以外の方は、それぞれ別のグループの発表を聴きに行ってもらいます。同じグループの方が、同じグループを聴きに行かないように注意してください。

これを何度か繰り返して、最後に元のグループに戻って、元のグループで、それぞれのメンバーがそれぞれのグループで聴いたことを共有するという形です。

それでは、発表者以外の方は席を立て、他のグループの所に移動してください。

～グループさるく～

第3回のまとめ

5班「災害に強いまちづくりは、人との絆づくり（地域愛）」

○人と人とのつながり

- ・あいさつ運動
- ・地域のキャッチフレーズをつくる
- ・地域の伝統行事に皆で取り組む
- ・学校のイベントをきっかけに地域で集まる
- ・現役世代に配慮したスケジュール設定
- ・子どもと大人と一緒に雑談する場所づくり
- ・自治会の集会所を活用する
- ・民生委員との協力

○高齢者にやさしいまち

- ・高齢者の見守り活動
- ・ボランティアグループの活用
- ・ふれあいサロン
- ・友愛訪問

○ごみのないまち、地域

- ・ごみステーションの清掃
- ・側溝の清掃

○防災への取り組み

- ・防災マップ作り
- ・避難訓練
- ・普段から危険箇所について話し合う



6 A班（高齢者）「“外”につながりをもつ（コミュニケーション）」

○具体的な取り組み

- ・ 高齢者に子どもを対象とした行事への手助けを求める
- ・ 回覧板を手渡しする
- ・ 災害時の救助者を指名する
- ・ 隣近所で声を掛け合う
- ・ 鶴の尾町自治会の取り組み

「助っ人隊」「男の会」「野菜市」「映画館」「高齢者向け体操教室」

○必要なこと

- ・ 高齢者の実態を把握する
- ・ それぞれの高齢者が求めるものを知る
- ・ 民生委員との連携を図る（自治会の会合への参加等）
- ・ 地域の行事への参加を促す

○めざすかたち

- ・ 自助、共助、公助……「近助（きんじょ）」
- ・ 孤独を愛しても、孤立してはいけない
- ・ 支えられる→支えあう
という意識の転換

⇒まちが明るくなる

⇒人が明るくなる

⇒孤独死がなくなる

⇒自慢できるまちになる



6 B班（高齢者）「サロンを実現する」

○今行っている取り組み

- ・グラウンドゴルフ
- ・ソフトボール
- ・健康体操
- ・健康講座
- ・健康麻雀
- ・手芸、工作
- ・カラオケ

○必要なこと

- ・リーダーの存在
- ・公的な制度の理解
- ・会場の確保（皆が気軽に集まれる場所）
- ・準備にかかる設備や費用
- ・高齢者のニーズ（ひきこもりがちの方が多い）
- ・高齢者への周知
- ・設立に向けた相談相手

○めざすかたち

- ・元気な高齢者
- ・高齢者が外に出る
- ・つながりのあるまち
- ・互いの顔が見えるまち
- ・顔見知りが増えてまちが明るく元気になる



8 A班 (安全安心)「コミュニケーションの活性化を図る」

○今行っている取り組み

- ・地域のパトロール
- ・年に2～3回の日帰り旅行
- ・高齢者の参加するグラウンドゴルフ
- ・月一回のゲーム大会
- ・子どもを対象とした行事（夏祭り・クリスマス会）
- ・敬老会

○必要なこと

- ・世代間の交流
- ・様々な世代で楽しめるイベント
- ・廃品回収、ハロウィンなどの機会を通じて家庭を訪問する
- ・子ども会の活性化
- ・防災リーダーの育成
(防災のみならず安全安心な地域づくりに関わってくれる)
- ・自治会活動の見える化、広報（議事録の公開、広報紙の作成）



○めざすかたち

- ・みんなが顔なじみの愉快で安全安心なまち

8 B班（安全安心）

「よし！いろんな世代が一緒になって安心安全のまちをつくるぞ！」

○今行っている取り組み

- ・ 高齢者サロン
- ・ 西町まつり
- ・ 同じ小学校を囲む自治会合同でのまつり（南山小）を始めた
- ・ 子どもから老人まで集まって楽しむゲーム大会
- ・ 一人暮らしの老人を対象とした行事
- ・ 学生などを対象とした準会員制度
- ・ 校区合同でのラジオ体操
- ・ 花壇の整備



○必要なこと

- ・ 現役世代（子育て世代）の声を聴く
- ・ 子どもを対象とした行事
(親も呼びこめる)

もちつき、廃品回収（手伝った子どもにはごほうび）など

- ・ 意欲的な若い世代の支援（おやじの会、母親の会など）
- ・ 「飲みニケーション」
- ・ 消極的な人を引っ張り出すような行事
- ・ 日々のあいさつなどのコミュニケーション

○めざすかたち

- ・ みんなが住み続けたいまち
- ・ 一度子どもが出ていっても帰ってくるまち
- ・ みんなが自分のために、せめて自治会にだけは入っている

第4回 グループワーク(2)

1. ワークショップ

- ・テーマ別のワークショップ
- ・グループさるく



第4回のまとめ

1班「自治会役員や後継者の人材育成のための取り組み」

○楽しく、続けられる自治会

○事業やシステムの見直し

- ・任期などの設定
- ・惰性的な行事、多すぎる会議…

○後継者の人材育成

- ・やはり自治会の主力は60代
- ・最近では定年が延びているが……
- ・50代後半のうちから意識を高め
ていく



○子どもに着目した後継者の獲得、人材育成

- ・育成協、PTAで活躍する若い世代は、地域活動にも関心があることが多い
- ・子ども会の活動には、必ず親がついてくる。

○他の団体との連携

- ・不足を補う
- ・他の団体にも、地域活動に関心のある人材がいる
- ・互いに知り合えば、様々な場面で融通がきく

○イベントの場を活用

- ・イベントで目立った若い会員に注目
- ・茶話会、座談会、飲み会
- ・自治会集会所を交流の場に活用

2班「自治会加入を勧める工夫」

○会長が夢を持ち、いつもにこにこ！

・明るい自治会、楽しそうな自治会、入りたい自治会

(役員が面白くなさそうにしていれば、当然、入りたいとは思わない)

・自治会が直接的なメリットを打ち出すのは難しい。しかし、明るく楽しい生活を送るための組織という雰囲気があれば入りたくなる

○5年先、10年先を想像し、今すべきことに取り組もう

○新しい住民へのアピール

・新しい住民を見逃さず、こちらからすぐに声をかける

・新しい土地で戸惑っている転入者に対し、自治会が力になるとアピール

・転入者も納得の情報提供(会費の使途や会員の義務などについて)

・自治会の担っている役割を丁寧に説明する

・「ようこそわが町へ」という姿勢

・未加入者の主張も参考に

○多様なライフスタイルへの対応

・学生、若年単身世帯向けの会費設定

・オーナーや管理会社を通じた賃貸アパート、マンションへの対応

・権利を制限し義務(会費)を軽減する

「準会員」制度

・高齢者を脱退させない仕組み(会費、役員、鶴の尾「助っ人隊」)

○誰でも参加しやすい行事やイベント

・子供と高齢者が一緒に楽しめるような季節の行事

・「常連」ばかりで固まっていると新しい人が入りにくい

・防災、防犯などに関する活動(誰もが当事者)



3班「自治会の広報活動の工夫」

○民主的な運営は大前提

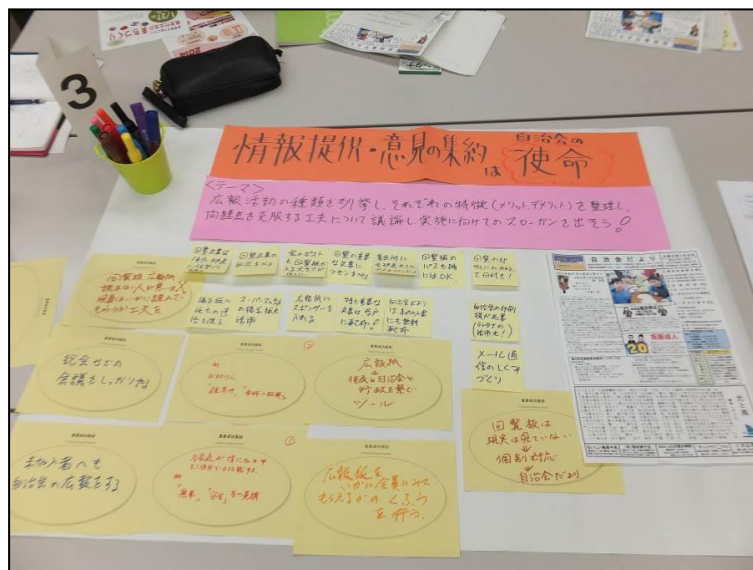
- ・総会を開催して、議事録を公開するのは当然
- ・会計、監査を適正に行う
- ・地域に企業等での経験者がいればよい
- ・意見を正しく集約して地域の方向性を決める

○自治会の広報紙をつくろう

- ・総会、役員会の報告など、基本的な事項はやはり必要
- ・楽しい内容であればなおよい
- ・あまり張り切りすぎても続かない…

○情報周知の工夫

- ・掲示板、回覧はあまり見ない！
- ・見てもらいたい回覧に付箋をつけたり目次を作ったりする
- ・特に重要な事項は広報紙と一緒に各世帯に配布
- ・自治会をアピールできる情報は、未加入者にも積極的に提供
- ・ホームページ、メール、SNSなども？



4班「行事やイベントの活性化」

- 足を踏み入れる勇気、リーダーシップ

- アイデアのもとになる情報を集める
 - ・他の自治会（市外）の活動を調べてみる
 - ・地域内の色々な人の知恵を借りる
 - ・同じことができなくても、参考になる面がある

- 新しい試み
 - ・ダイヤランド3丁目「ガーデンさるく」
 - ・防災に関する取組み（総じて関心が高い）

- 今行っている取組みに、より多くの人を巻き込む工夫
 - ・敬老会に子どもを巻き込む
 - ・子どもの行事に高齢者を巻き込む

- 柔軟な活動をしやすい環境
 - ・自治会集会所の活用、集まりやすい雰囲気づくり
 - ・会計の運用の見直し
 - ・自治会の組織の見直し
 - ・補助制度の活用（高齢者サロンなど）

第5回 講座のまとめ

1. ワークショップ

- 課題解決計画づくり
- 班内での意見交換
(グループ・スーパービジョン)

第4回のまとめ

今日は、今までの講座……特に3回目、4回目のワークショップで出た意見を踏まえた上で、皆さんのそれぞれの地域、自分の自治会に関する課題を今一度考えていただいて、どのように課題解決に向けて進んでいこうかということを考えていただきたいと思います。

皆さんが自分のまちに帰ったときに、自分のまちをどうしていこうかという気持ちで、考えていただくということです。それからは、意見交換を行って、最後にサポーターの方からのコメントをいただくという形で、まとめに入ろうかと思っています。

ということで、今日は「企画書」という形で、シートを用意しておりますので、これを使って考えをまとめていただこうと思います。

それではこれから時間を取ろうと思います。わかる方は書き始めていただいて構いませんが、これから説明を少しやりますので、聞きながら書いていただければと思います。

～企画書づくり開始～

第5回目 担い手の企画力を高めよ
：「わが町の地域課題を解決する活動企画書づくり」

活動企画名 _____

■ 活動領域（自治会の活動領域において該当するところに○を付けてください）

①役員・後継者育成 ② 加入促進 ③ 広報活動 ④ 行事・イベント

■ 活動目的 _____

・

■ 現状課題 _____

・

■ 課題解決の方策 _____

■ ポジティブコア（この活動に関連するわが町の強み・価値等）

・

■ 重要成功要因（この活動を成功に導く重要成功要因）

・

■ 課題解決に向けた活動の進め方、具体的な行動や実現方法の提案

・

■ 期待される効果 _____

・

自治会名 _____

氏名 _____

企画書を記入していただくにあたっては、それぞれの関心のあるテーマがあるかと思えます。これを「活動領域」として、該当するところに○をつけてください。

それから、それぞれの皆さんが、それぞれの地域の課題を考えたときに、こういった活動を起こせばいいのか、仕掛ければいいのかということを、**活動企画名**として記してください。完璧な題名でなくても、曖昧なものでも構いません。

その後は、この活動は何を目指すものか、何を達成したいのかというところを、**活動目的**の欄に記していただきたいと思えます。

現状の課題については、もう十分に感じておられると思えます。何々が少ないとか足りないというような現実です。

課題解決の方策については、まず「**ポジティブコア**」。これは、様々な課題がある中でも、自分の自治会が持っている強みは何だろうかということを記してください。第3回目で、ポジティブに考えるという練習をしましたね。

「**重要成功要因**」は、この活動を成功に導く一番大事な要素はなんだろうか、ということです。「前向きな心」とか「すぐ動く精神」だとか、抽象的なものでも結構です。

「**活動の進め方**」や「**具体的な行動や実現方法**」ですが、「具体的」と書いていますが、なかなか難しい場合は、断片的なアイデアや思いつきをどんどん並べていただいても構いません。

「**期待される効果**」については、そのままです。こちらも、具体的にどうなるということでもいいですが、抽象的なものでも結構です。

班内での意見交換

企画書の記入がおおむね終わったようですので、グループ内での意見交換に入りたいと思います。ちょっと進め方にルールがありますので、これから少し説明をします。これからやるのはグループ・スーパービジョンという方法です。

これは福祉の現場で行われるやり方で、報告者が報告を一方向的にやるのではなくて、あるいは他のメンバーがその都度質問するのではなくて、まず、よく話を聞いたうえで、整理していくという手法です。

【グループ・スーパービジョンとは？】

数名のチームメンバーと、1名のスーパーバイザー（経験を積んだ人）によってグループを形成して実施する話し合いの方法。

グループ・スーパービジョンの機能：

- ①チームメンバー同士の肯定と支持
- ②新たなアイデアの創造
- ③メンバー同士の学びの機会

【ステップ 1】 役割を決めましょう。

[進行役]発表時間が守られるように進行する。 →今回は事務局が行います。

[発表者]発表の順番を決めてください。一人 5 分の時間を守ってください。

[スーパーバイザー]経験者の立場で、助言やコメントを行います。 →今回はサポーター

【ステップ 2】

報告者 1 名が、自分の企画書をテンポよく 5 分以内で説明する。

企画名→目的→現状課題→重要成功要因→課題解決に向けた進め方

(進行役) ①発表時間が守られるように進行する。

(他のメンバー) ①報告が終わるまでよく聴く。②質問事項があれば、メモをしておく。

【ステップ 3】

(報告者) 一人ひとりの質問にその都度答えるのではなく、

質問に対する答えや自分の考えをメモしておく。

(進行役) ①一人ひとり意見を述べられるように進行する。

② ①が終わったら、報告者に回答や考えを述べてもらう。

(他のメンバー) 報告内容に関して、一人ずつ質問や意見を述べる。

無い場合は「パス」と言い、次の人に飛ばす。

【ステップ 4】

スーパーバイザー（サポーター）が、報告者と他のメンバーの意見や考えをまとめ、簡潔にコメントする。



～グループ・スーパービジョン 終了～

★最後に、平成 26 年度 地域づくり担い手育成講座の内容の振り返りシートを書いていただきましたが、こちらはそれぞれの受講者の方々へ送付いたします。

★ベイ先生から、まとめの言葉★

第5回の講座にて行った「グループ・スーパービジョン」は、自分の考えを整理できますし、相手の意見もよく聞くことができるため、ぜひ地域での話し合い等にご活用いただけたらと思います。

また、それぞれ自分が最初に設定した目標の達成度やその他この1年間の講座を振り返ったことで、これまで自分がどのような気持ちで地域に関わってきたのか、そして、これからどのような気持ちで地域活動に取り組んでいくのか、ということをしっかり整理できたのではないかなと思います。

みなさん、1年間を通して、「地域づくり担い手育成講座」にご協力いただきありがとうございました。

**平成26年度
地域づくり担い手育成講座
(ダイジェスト)**

[編集・発行]

長崎市 市民局市民生活部 自治振興課

TEL 095-829-1134

FAX 095-829-1233

平成27年3月発行